

# ルネサスRXマイコンで uClinuxを動かす

佐藤 嘉則

ルネサス エレクトロニクス製32ビット・マイコンRX62NにuClinuxを移植した。本章では、その基本的な起動方法と、ビルド環境の構築やカーネルを移植するポイントなどについて解説する。

(筆者)

今回ターゲットとして使用したRX62Nボードは、「究極のRX62N」と「RX-MEGA」(どちらも特殊電子回路製)です。写真1に、「究極のRX62N」を示します。大容量のSDRAM

が搭載されているので、uClinuxも余裕をもって動かすことができます。また、10/100Base-TX対応EthernetやSDカードにも対応しているので、ネットワークやストレージも接続することができます。

もう1枚のボード「RX-MEGA」を写真2に示します。実は、このボード単体ではCPUを搭載しておらず、本誌2011年5月号付属RX62Nマイコン基板をスタック接続して使用します。こちらのボードにも、大容量SDRAMをはじめとして、EthernetやSDカードに対応しています。

今回のターゲットCPUとして使用した「究極のRX62N」と「RX-MEGA」のハードウェアの違いを表1にまとめます。

## 1. ビルド済みuClinuxを試してみよう

カーネル・ビルド環境の構築法やビルド方法などの説明を始める前に、ビルド済みのファイルを書き込んで、RXボードでuClinuxを起動してみましょう。どちらのボードにも

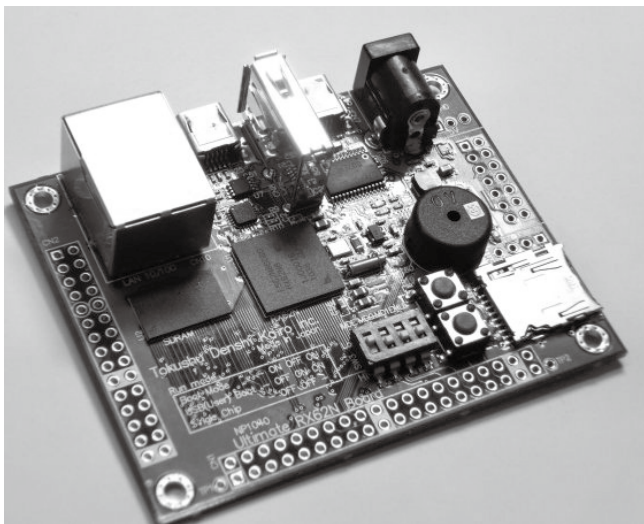
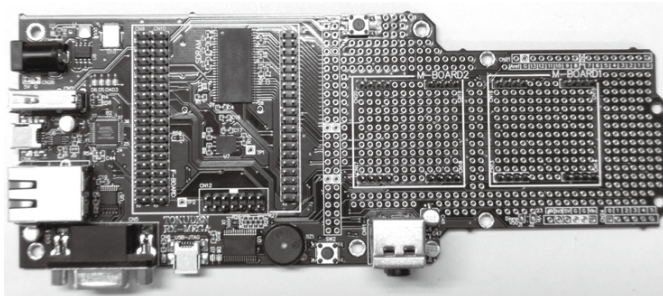


写真1 「究極のRX62N」ボードの外観

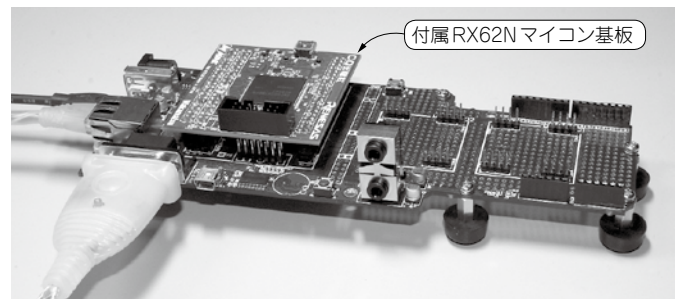
<http://www.tokudenkairo.co.jp/rx62n/>



(a) RX-MEGA単体

写真2 「RX-MEGA」ボードの外観

<http://www.tokudenkairo.co.jp/rxmega/>



(b) 本誌付属RX62Nマイコン搭載時